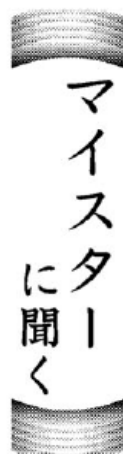




熱処理 中尾 睦英さん



15

東研サーモテック（大阪市東住吉区、川壽修社長、06・6714・2425）は、熱処理専門の大手。特級熱処理技師の中尾睦英さんは、2006年に寝屋川工場（大阪府寝屋川市）へ導きついで、2011年に播磨工場（兵庫県小野市）と小野工場（同）の両工場長と

として、新たなスタートをきっている。熱処理と一言で言っても焼き入れや焼き戻し、浸炭、窒化など多様な種類があり、一人前の熱処理工になるには15年はかかるという。材料が同じでも、微量な成分差が大きな影響を及ぼすため、熱処理条件の確立以上に、同条件の維持・管理が難しい。「技術標準はないに等しい。材料の知識、経験、過去データ、よく似た製品や規格をもとに、試し焼きなどを通じ要求される条件に近づけていく」と説明する。

経験・勘こそマニュアル

熱処理は炉内の状態にも左右される。急に煤けて、浸炭層の深さなどが適正基準からずれる場合もあるが、熟練者は仕上がりを見れば炉の状態が判断可能。「マニュアルを作っても、その通りにはならない。経験や勘といった文字で表現しにくいものが、熱処理にとって本当のマニュアルだ」と指摘する。

炉の管理は温度・雰囲気制御盤が示す炉内の温度や炭素濃度、ガス添加量など多様な指標を用いる。「異変があると適正基準に戻すため、原因不明のまま複数のパラメーターをすぐに調整したがる人が多い」という。パラメーターを一つずつ調整し、原因を追及するよう指導することで後進の経験と勘も鍛えている。（大阪・松中康雄）（水曜日掲載）

日刊工業新聞
2012年(平成24年)4月18日付

日刊工業新聞社からの転載許可に基づいて掲載
本記事への著作権は日刊工業新聞社に帰属します
記事への改編、他への転載は一切禁止致します